（11）村田川　～貴重な生き物を育む水辺～

基本方針
・生き物に出会える水辺
・郷土の生き物（ホタル等）の保護・育成

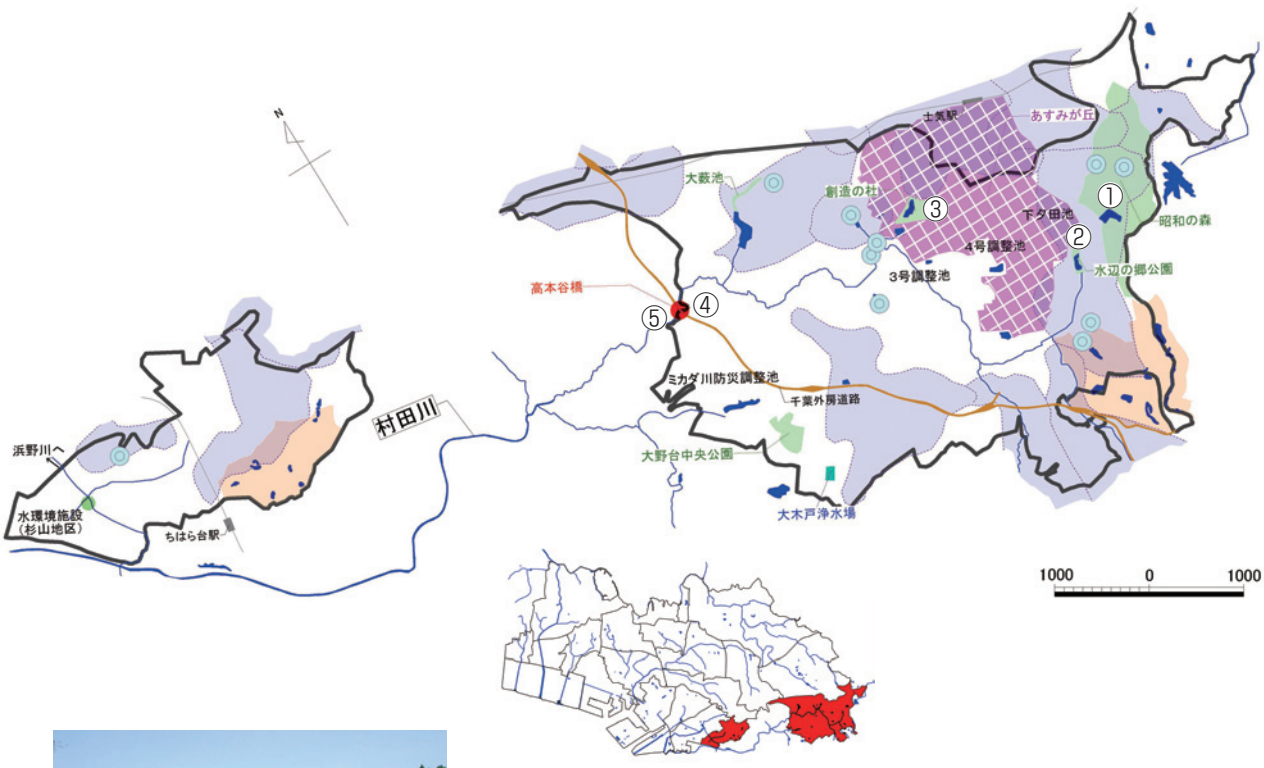
水域の概要と水環境の現状

1）水域の概要

区　名	町丁名
緑区	あすみが丘 2 丁目*、あすみが丘 4 丁目*、あすみが丘 5～9 丁目、板倉町、大金沢町*、大木戸町、大椎街、大高町*、大野台 1～2 丁目、越智町、落井町、小山町、おゆみ野中央 4*、8*、9 丁目、おゆみ野南 4*、5、6 丁目、刈田子町*、小金沢町*、富岡町、中西町、古市場町*、誉田町 2 丁目*、茂呂町、小食土町

(備考)町丁名の後ろの＊は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

・村田川は板倉町を起点として、越智町を流下後、市原市に入り、2本の支流と合流して市原市との境を流れ、東京湾に注いでいる全長約17.5kmの河川です。
・村田川上流域には農地、樹林地が多く残されており、水田の農業用水として使用されています。上流の右岸には大規模な住宅地があり、左岸は千葉土気緑の森工業団地として整備されています。
・平成22年7月末現在、水域内の人口は約36,600人、世帯数は約13,200世帯です。（推計値）



対象区域位置図

①昭和の森　下夕田池（しもんたいけ）

凡例
公園・緑地
谷津田集水域
主要住宅団地
ゴルフ場
評価地点
湧水地点
浄水場、処理場

②水辺の郷公園

③創造の杜

④高本谷橋より上流を臨む

⑤高本谷橋より下流を臨む

2）水環境の現状

■水生生物の生息・生育状況

【魚　類】

平成15年度は8種、平成19年度は6種が確認されました。このうち重要種※は、スナヤツメ、オイカワ、メダカ、トウヨシノボリの4種が確認されました。本地点では、平成15年度に特定外来生物（外来生物法）であるブラックバス及び外来生物のタイリクバラタナゴが確認されました。また、平成15年度、平成19年度にスナヤツメとメダカが確認されており、平成15年度以降の魚類の生息環境には、大きな変化はないものと言えます。

【底生生物】

平成15年度は28種、平成19年度は50種が確認されました。このうち重要種は、マシジミ、テナガエビ、サトキハダヒラタカゲロウ、ハグロトンボ、オオカワトンボ、コオイムシの6種が確認されました。平成15年度の調査に比べて平成19年度の調査では、確認種数が増加していますが、これはユスリカ科の分析が細分化されたためです。ユスリカ科以外は、ほぼ同様となっており、底生生物の生息環境には、大きな変化はないものと言えます。

※重要種
環境省や千葉市のレッドリスト等に記載され、千葉市の保護上重要な野生生物のことをいいます。

◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、春季では平成15年度と平成19年度ともに、「とてもよごれている」～「きれい」となっています。秋季では平成15年度は「わりあいきれい」でしたが、平成19年度は「わりあいきれい」～「きれい」となり、汚濁に弱い種も生息できるような生息環境へと改善の方向にあると言えます。

河川（地点）	年度	調査時期	きれい	わりあいきれい	よごれている	とてもよごれている
村田川（高本谷橋）	H15	春季	←――→		←――→	
		秋季		←――→		
	H19	春季	←――→			←――→
		秋季	←――→	←――→		

生物学的水質判定結果模式図（高本谷橋）

なお、一般的にきれいな水域には「カワゲラ類」、わりあいきれいな水域には「コカゲロウ類」、よごれている水域には「ミズムシ」、とてもよごれている水域には「イトミミズ」などの生物が当てはまります。

【植　物】

平成21年度に182種が確認され、重要種では、ヤマウルシ、ヤナギモの2種が確認されました。一方、特定外来生物のアレチウリも確認されました。

村田川の高本谷橋で確認された水生生物

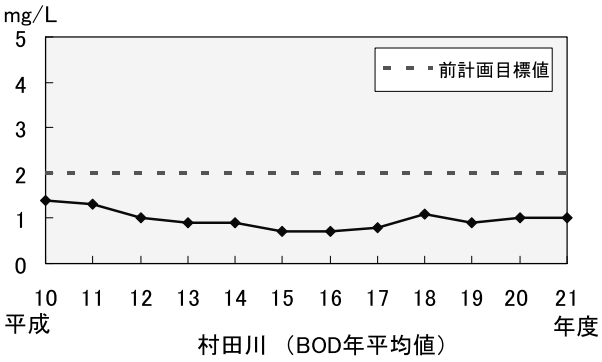
生物	前千葉市水環境保全計画指標生物	H15現況	H19現況
魚類	シマドジョウ ホトケドジョウ ギバチ メダカ ナマズ	スナヤツメ オイカワ タモロコ ドジョウ **メダカ** トウヨシノボリ ブラックバス タイリクバラタナゴ	スナヤツメ オイカワ タモロコ ドジョウ **メダカ** トウヨシノボリ
底生生物	ウルマーシマトビゲラ テナガエビ コカゲロウ	マシジミ **テナガエビ** サトキハダヒラタカゲロウ コオイムシ オオカワトンボ など全28種	マシジミ属 **テナガエビ** シロハラコカゲロウ ナミウズムシ オオカワトンボ など全50種
植物	マコモ コウホネ オモダカ	H21現況 ヤマウルシ ヤナギモ など全182種（特定外来生物アレチウリ含む）	

注）太字は指標生物を示します。

■水質･流量等の状況

【河川の水質】

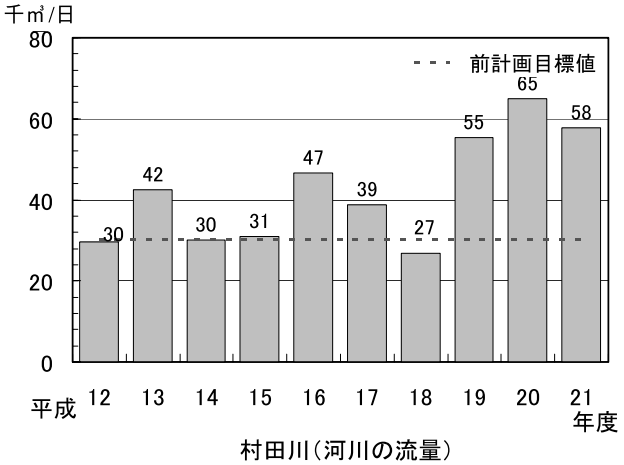
高本谷橋におけるBOD年平均値は、平成10年度以降、ほぼ横ばいの傾向を示し、0.7～1.4mg/Lの範囲で推移しています。全期間を通して、前計画目標値を達成しています。



村田川 （BOD年平均値）

【河川の流量】

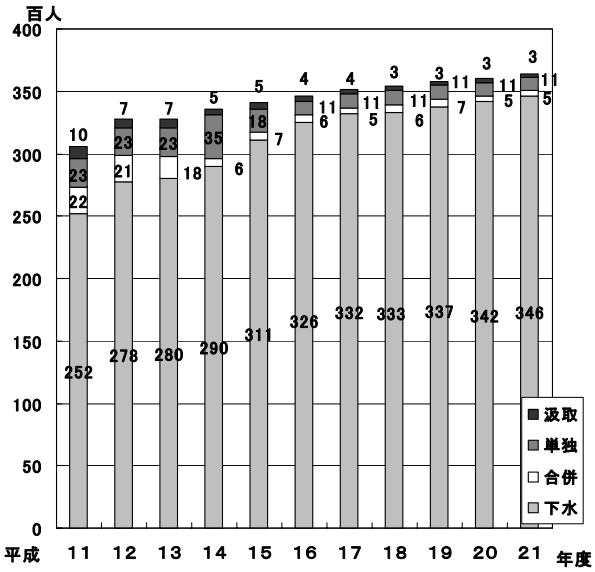
高本谷橋における平成12年度から平成21年度の河川流量は27～65千㎥/日で推移しています。平成19年度以降、高い傾向にあります。



村田川（河川の流量）

【生活排水処理形態別人口】

平成21年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約95%となり、合併処理浄化槽人口が約1%、単独処理浄化槽人口が約3%、その他が約1%となっています。



村田川（生活排水処理形態別人口）

注）汲取…汲み取り
単独…単独処理浄化槽
合併…合併処理浄化槽
下水…公共下水道

望ましい水環境の姿

1）生物指標

魚類等	①スナヤツメ、オイカワ、メダカ、トウヨシノボリ ②キンブナ、モツゴ、シマドジョウ、ホトケドジョウ ③ウナギ、ナマズ、タモロコ、ウグイ	①現在生息している重要種 ②過去に生息していた種 ③環境が整えば生息可能な種
底生生物	①マシジミ、テナガエビ、サトキハダヒラタカゲロウ、ハグロトンボ、コオイムシ ②カワゲラ、ナガレトビゲラ、ヒラタカゲロウ、ヘビトンボ、ブユ、ウズムシ	①現在生息している重要種 ②現在よりも１ランク上の種 ③環境が整えば生息可能な種 ④過去に生息していた種
水生植物	①ヤナギモ、エビモ	①現在生育している重要種 ②水辺に特有な在来種

2）物理環境

流速	10～50cm/s
水深	5～20cm
河床材料	中～細礫、中～細砂
河道	瀬と淵等、変化に富んでいる。 落差工による魚類等の生息環境の分断がない。
護岸構造	環境に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道、サイクリングコース沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

3）水質・流量

ＢＯＤ	2mg/L 以下
溶存酸素量	7.5mg/L 以上
大腸菌群数	1,000MPN/100mL 以下
流量	65,000m^3/日以上

目標達成のための取組み

1）いろいろな水辺の生き物の保全

・河川周辺の谷津の保全などによってホタル等の生物の生息地を保全・再生し、自然との共生が図れる水辺環境の創出に努めます。

・ふれあい自然観察会等を開催し、人と生き物とのふれあい意識の醸成・啓発を図ります。

2）親しみのもてる水辺の創出

・大薮池湧水、水の郷公園など良好な水環境の場などの情報の発信により、市民による水辺の利用を促進します。

3）ゆたかな流れ（水量）の確保

・かん養域である森林や谷津田（越智、昭和の森、小中川）の保全を図ります。

・民有林を対象とした枝打ち、間伐林内整備等を行い、森林の保全・育成を図ります。

・湧水の保全として、水量の調査を継続的に実施します。

4）きれいな水（水質）の保全

・生活排水の集合処理（公共下水道等）を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。

・家畜ふん尿の適正な処理の指導に努めます。

・ゴルフ場からの排水に含まれる残留農薬の実態調査を行うとともに、農薬使用量の削減等を指導します。

主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	ホタルの生息地の保護
	生き物ふれあい意識の醸成・啓発 〔ふれあい自然観察会等〕（昭和の森）
	地域生態系の保全・再生
親しみのもてる水辺の創出	水環境に係る情報の発信・調査研究
ゆたかな流れ（水量）の確保	森林の育成・保全〔優良森林整備事業〕
	湧水の保全（大薮池）
	谷津田の保全（越智、昭和の森、小中川）
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕
	畜産環境対策の推進
	ゴルフ場における農薬使用の削減指導

（12）浜田川　～人々が安らげる水辺景観の創出～

基本方針
・街にうるおいを与える水辺空間

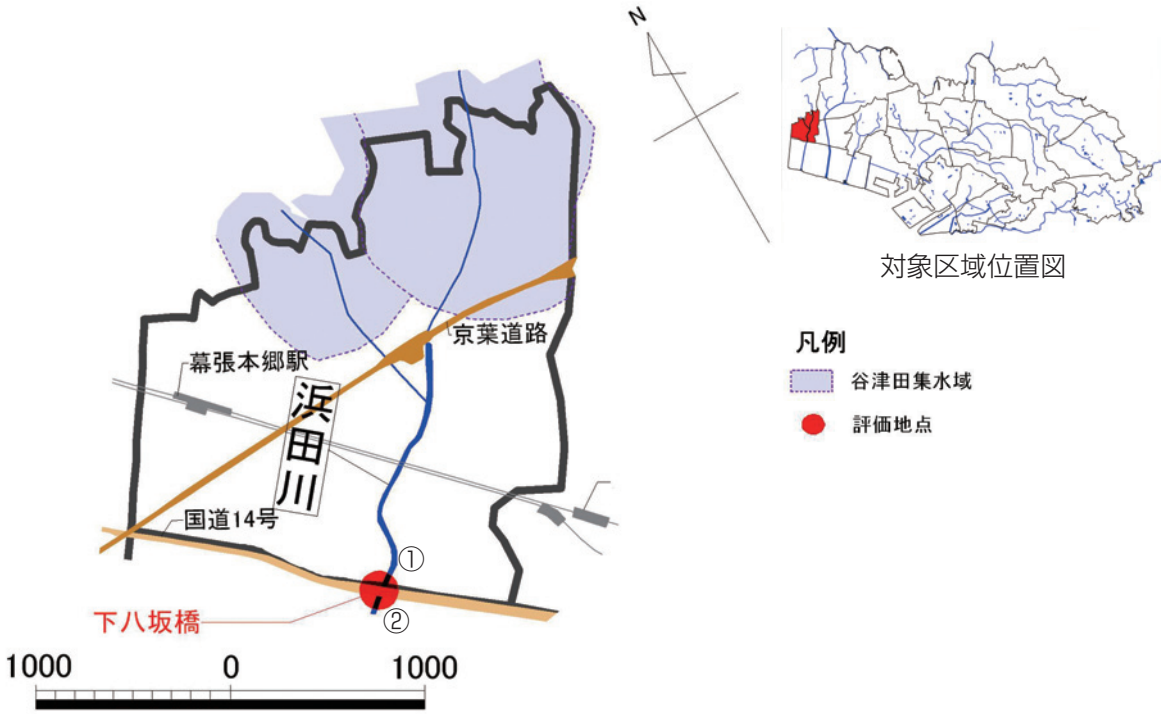
水域の概要と水環境の現状

1）水域の概要

区　名	町丁名
花見川区	武石町 1 丁目*、幕張町 1 丁目*、幕張町 2 丁目*、幕張町 3 丁目*、幕張町 4 丁目*、幕張本郷 1～7 丁目

(備考)町丁名の後ろの＊は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

・習志野市から流れる都市下水路が幕張地区を経て浜田川都市下水路となり、河口から約2km上流部において、二級河川（水域区分はいなげの浜～幕張の浜）に指定されています。
・流域には住宅地や市街地が形成されており、河川の近くまで住宅が迫っている地区もあります。下流域は河川沿いに緑地が整備されています。
・平成22年7月末現在、水域内の人口は約30,400人、世帯数は約14,000世帯です。（推計値）



対象区域位置図

①下八坂橋より上流を臨む

②下八坂橋より下流を臨む

2）水環境の現状

■水生生物の生息・生育状況

【魚　類】

平成15年度は6種、平成19年度は10種が確認されました。このうち重要種※では、モツゴ、ビリンゴ、ヌマチチブの3種が確認されました。平成15年度の調査に比べて、平成19年度の調査では、コイ、モツゴ、スミウキゴリ、チチブの4種が新たに確認され、種数の増加が見られます。

【底生生物】

平成15年度は9種、平成19年度は19種が確認されました。このうち重要種では、テナガエビ、クロベンケイガニ、モクズガニの3種が確認されました。平成15年度の調査に比べて、平成19年度の調査では確認種数が増加していますが、これはユスリカ科の分析が細分化されたことによります。その他の種では、平成19年度に重要種であるテナガエビ、クロベンケイガニ、モクズガニが新たに確認されています。このことから、底生生物の生息環境は改善の傾向にあると言えます。

◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、平成15年度春季では「よごれている」～「とてもよごれている」、平成15年度秋季及び平成19年度春季では「わりあいきれい」～「とてもよごれている」、平成19年度秋季では「きれい」～「よごれている」と徐々に汚濁に弱い種も生息できる環境へと改善されている方向にあると言えます。

河川（地点）	年度	調査時期	きれい	わりあいきれい	よごれている	とてもよごれている
浜田川（下八坂橋）	H15	春季			←	→
		秋季		←		→
	H19	春季		←		→
		秋季	←		→	

生物学的水質判定結果模式図（下八坂橋）

なお、一般的にきれいな水域には「カワゲラ類」、わりあいきれいな水域には「コカゲロウ類」、よごれている水域には「ミズムシ」、とてもよごれている水域には「イトミミズ」などの生物が当てはまります。

【植　物】

平成21年度に64種が確認されましたが、重要種は確認されませんでした。

浜田川の下八坂橋で確認された水生生物

生物	前千葉市水環境保全計画指標生物	H15現況	H19現況
魚類	フナ類 モツゴ コイ	ボラ ビリンゴ マハゼ アベハゼ ヌマチチブ ウキゴリ属	ボラ ビリンゴ マハゼ アベハゼ ヌマチチブ ウキゴリ、スミウキゴリ **モツゴ** **コイ** チチブ
底生生物	ウスバヒメガガンボ ヒメユスリカ ナミウズムシ	ゴカイ イトミミズ科 ユスリカ属 イシビル科 シオカラトンボ　など全9種	テナガエビ クロベンケイガニ モクズガニ カワゴカイ属 ユスリカ属　など全１９種
植物	エビモ ヒメガマ コウホネ	H21現況 ヨシ オギ セイタカアワダチソウ など全64種（流水中で水生植物は確認されず）	

注）**太字**は指標生物を示します。

※重要種

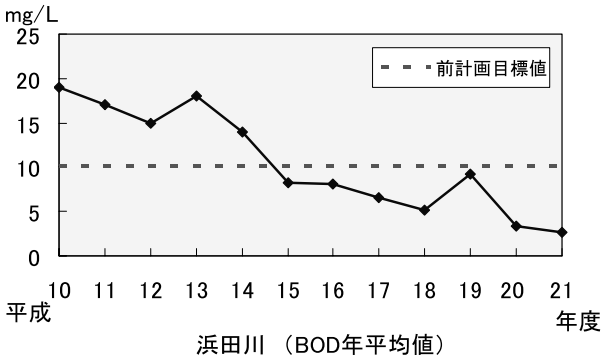
環境省や千葉市のレッドリスト等に記載され、千葉市の保護上重要な野生生物のことをいいます。

■水質･流量等の状況

【河川の水質】

下八坂橋におけるBOD年平均値は、平成10年度以降、低下する傾向にあります。

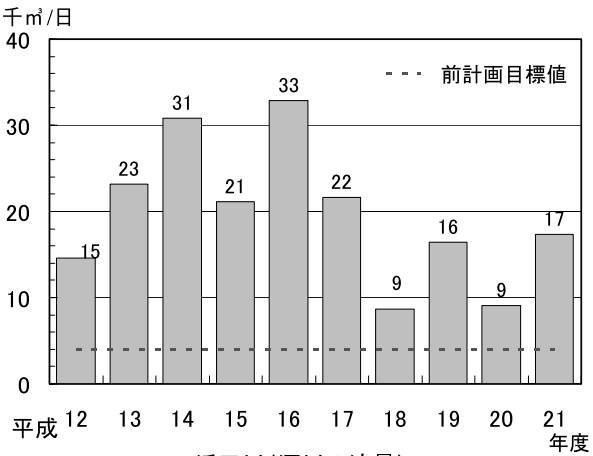
平成15年度以降は、前計画目標値の10mg/L以下を達成しています。



浜田川 （BOD年平均値）

【河川の流量】

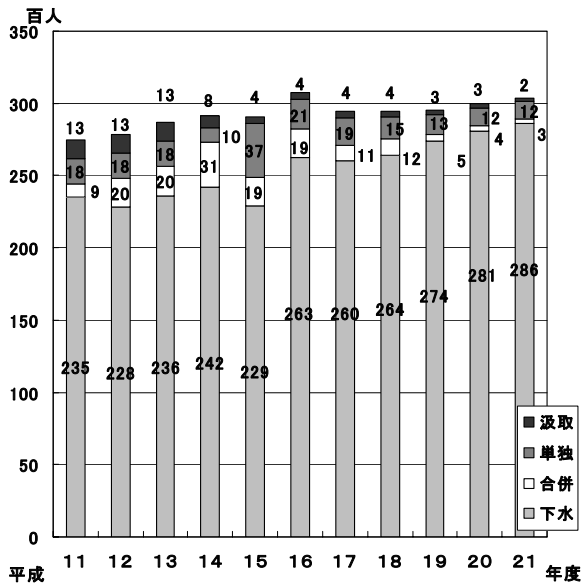
下八坂橋における平成12年度から平成21年度の河川流量は9～33千㎥/日で推移しています。年度によるばらつきが見られます。



浜田川（河川の流量）

【生活排水処理形態別人口】

平成21年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約94%となり、合併処理浄化槽人口が約1%、単独処理浄化槽人口が約4%、その他が約1%となっています。



浜田川（生活排水処理形態別人口）

注）汲取…汲み取り
単独…単独処理浄化槽
合併…合併処理浄化槽
下水…公共下水道

望ましい水環境の姿

1）生物指標

魚類等	①モツゴ、ビリンゴ、ヌマチチブ ②スズキ、マハゼ、セイゴ	①現在生息している重要種 ②過去に生息していた種 ③環境が整えば生息可能な種
底生生物	①テナガエビ、クロベンケイガニ、モクズガニ	①現在生息している重要種 ②現在よりも１ランク上の種 ③環境が整えば生息可能な種 ④過去に生息していた種
水生植物	②ヨシ、ヒメガマ	①現在生育している重要種 ②水辺に特有な在来種

2）物理環境

河床材料	細礫、中～細砂
河道	現在の形状を活かす。
護岸構造	治水･美観の向上等に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道、サイクリングコース沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

3）水質・流量

ＢＯＤ	5mg/L 以下
溶存酸素量	5mg/L 以上
流量	評価地点が感潮域のため設定しない。

目標達成のための取組み

1）いろいろな水辺の生き物の保全

・公園緑地の整備を推進するとともに、これらを有機的に連携した、動植物の移動経路等となるエコロジカルなネットワーク（緑のネットワーク）の整備・保全を推進します。

2）親しみのもてる水辺の創出

・プレジャーボートの無秩序な係留による景観の悪化等を回避するために、不法係留船の調査等を進めます。

3）ゆたかな流れ（水量）の確保

・農地、公園・緑地の保全に努めます。

4）きれいな水（水質）の保全

・生活排水の集合処理（公共下水道等）を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。

・環境保全型農業（環境にやさしい農業）を推進します。

主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	緑のネットワーク化
親しみのもてる水辺の創出	プレジャーボート等の不法係留対策
ゆたかな流れ（水量）の確保	農地の保全
	都市公園、緑地等の維持管理
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕
	環境保全型農業の推進

（13）花園川（草野水路）　～河川沿いの緑化や景観美化に配慮した川づくり～

基本方針
・やすらぎを与える都市河川

水域の概要と水環境の現状

1）水域の概要

区　名	町丁名
花見川区	検見川町 5 丁目*、西小中台、花園町*、宮野木台 1～4 丁目
稲毛区	あやめ台、稲毛 1 丁目*、稲毛 2～3 丁目、稲毛町 4～5 丁目、稲毛東 2 丁目*、稲毛東 4 丁目*、稲毛東 5～6 丁目、柏台、小仲台 5 丁目*、小仲台 6 丁目*、小仲台 7～9 丁目、小中台町、園生町*、長沼町*、宮野木町
美浜区	稲毛海岸 5 丁目

(備考)町丁名の後ろの＊は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

・花園川（草野水路）は、草野水のみちと宮野木水のみちが合流した後の国道14/357号線から下流に位置し、流末は東京湾に注いでいます。なお、現状は都市下水路であり、河川の指定を受けている区間はありません。
・流域には住宅や公共施設等が多く存在します。また、草野水のみち沿いには遊歩道やベンチ等が整備されており、桜など四季折々の草花を楽しむことができます。
・平成22年7月末現在、水域内の人口は約82,600人、世帯数は約35,000世帯です。（推計値）

対象区域位置図

①草野水のみちの桜並木

②高洲橋から上流を臨む

2）水環境の現状

■水生生物の生息・生育状況

【魚　類】

平成15年度は4種、平成19年度は7種が確認されました。このうち重要種※は、ビリンゴが確認されました。平成19年度に新たに確認された種は、ビリンゴ（重要種）、アベハゼ、チチブでした。平成15年度の調査に比べて、平成19年度の調査では確認種数が増加しています。

【底生生物】

平成15年度は12種、平成19年度は22種が確認されました。このうち重要種は、ウミゴマツボ、テナガエビの2種が確認されました。平成19年度の調査で確認種が増加したのは、護岸の付着生物について調査を行ったためです。平成15年度及び平成19年度ともに、調査時期により確認状況が大きく変化しています。本地点は底質環境がヘドロ状で硫化水素臭を呈するなど、現状では、底生生物の生息環境としては望ましいものではありません。

◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、春季では平成15年度と平成19年度ともに、「わりあいきれい」～「よごれている」で変化はみられませんでした。秋季では、平成15年度は「よごれている」～「とてもよごれている」に比べ、平成19年度は、「きれい」～「とてもよごれている」となり、汚濁に弱い種も生息できるような環境が見られます。

河川（地点）	年度	調査時期	きれい	わりあいきれい	よごれている	とてもよごれている
花園川〔草野水路〕（高洲橋）	H15	春季		←――→		
		秋季			←――→	
	H19	春季		←――→		
		秋季	←――→			←――→

生物学的水質判定結果模式図（花園川〔草野水路〕）

なお、一般的にきれいな水域には「カワゲラ類」、わりあいきれいな水域には「コカゲロウ類」、よごれている水域には「ミズムシ」、とてもよごれている水域には「イトミミズ」などの生物が当てはまります。

【植　物】

平成21年度に59種が確認されましたが、重要種は確認されませんでした。

花園川（草野水路）の高洲橋で確認された水生生物

生物	前千葉市水環境保全計画指標生物	H15現況	H19現況
魚類	フナ類 モツゴ コイ	**コイ** スズキ ボラ マハゼ	**コイ** スズキ ボラ マハゼ ビリンゴ アベハゼ チチブ
底生生物	ウスバヒメガガンボ ヒメユスリカ ナミウズムシ	マガキ アサリ アシナガゴカイ ヤマトスピオ ヒメミミズ科 など全12種	マガキ アサリ アシナガゴカイ ウミゴマツボ テナガエビ など全22種
植物	エビモ ヒメガマ コウホネ	H21現況 **ヒメガマ** ヤマグワ など全59種（流水中で水生植物は確認されず）	

注）**太字**は指標生物を示します。

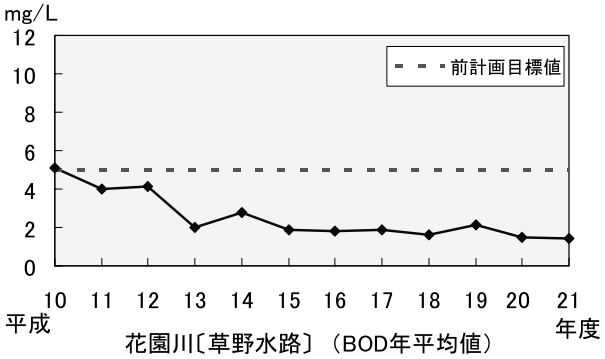
※重要種

環境省や千葉市のレッドリスト等に記載され、千葉市の保護上重要な野生生物のことをいいます。

■水質･流量等の状況

【河川の水質】

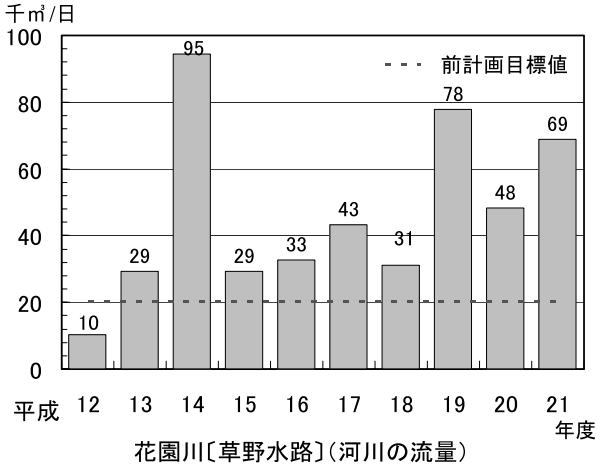
高洲橋におけるBOD年平均値は、平成10年度以降、低下する傾向を示し、平成15年度以降は2mg/L前後で推移しています。全期間を通して、前計画目標値の5mg/L以下を達成しています。



花園川〔草野水路〕（BOD年平均値）

【河川の流量】

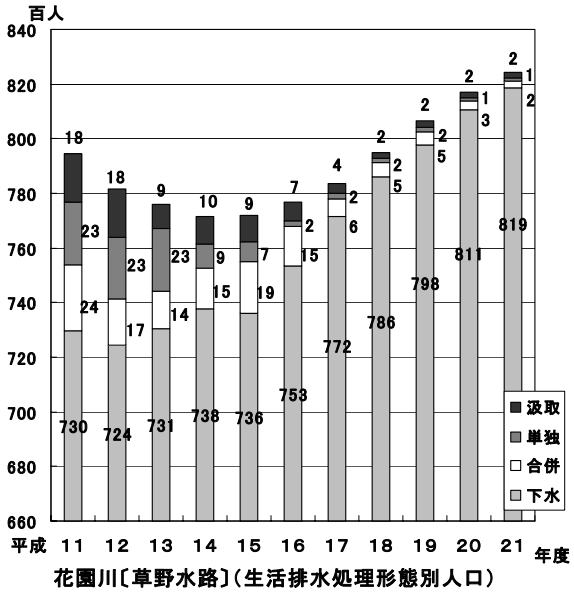
高洲橋における平成12年度から平成21年度の河川流量は10～95千㎥/日で推移しています。年度によるばらつきが見られます。



花園川〔草野水路〕(河川の流量)

【生活排水処理形態別人口】

平成21年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約99%となっており、大部分が下水道で処理されています。



花園川〔草野水路〕(生活排水処理形態別人口)

注）汲取…汲み取り
単独…単独処理浄化槽
合併…合併処理浄化槽
下水…公共下水道

望ましい水環境の姿

1）生物指標

魚類等	①ビリンゴ、 ②スズキ、マハゼ、セイゴ	①現在生息している重要種 ②過去に生息していた種 ③環境が整えば生息可能な種
底生生物	①ウミゴマツボ、テナガエビ ②クロベンケイガニ、モクズガニ	①現在生息している重要種 ②現在よりも１ランク上の種 ③環境が整えば生息可能な種 ④過去に生息していた種
水生植物	②ヨシ、ヒメガマ	①現在生育している重要種 ②水辺に特有な在来種

2）物理環境

河床材料	細礫、中～細砂
河道	現在の形状を活かす。
護岸構造	治水・美観の向上等に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道、サイクリングコース沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

3）水質・流量

ＢＯＤ	3mg/L 以下
溶存酸素量	5mg/L 以上
流量	評価地点が感潮域のため設定しない。

目標達成のための取組み

1）いろいろな水辺の生き物の保全

・公園緑地の整備を推進するとともに、これらを有機的に連携した、動植物の移動経路等となるエコロジカルなネットワーク（緑のネットワーク）の整備・保全を推進します。

2）親しみのもてる水辺の創出

・市民の森（園生）において市民との連携による維持管理を実施し、雨水浸透域の保全に努めます。

・開発行為等に関する緑化指導、保存樹木・樹林の指定等により、緑地等の保全を図ります。

3）ゆたかな流れ（水量）の確保

・生活排水の集合処理（公共下水道等）を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。

・工場・事業場からの排出負荷の削減を推進します。

主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	緑のネットワーク化
ゆたかな流れ（水量）の確保	保存樹木・樹林の指定・保全
	市民の森の整備・市民協働による維持管理 （園生市民の森、園生の森公園）
	開発行為等に関する緑化指導
	都市公園、緑地等の維持管理
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕
	工場・事業場排水等の適正処理の指導

（14）浜野川　～暮らしにとけこむ身近な水辺～

基本方針
・暮らしの中の水辺空間

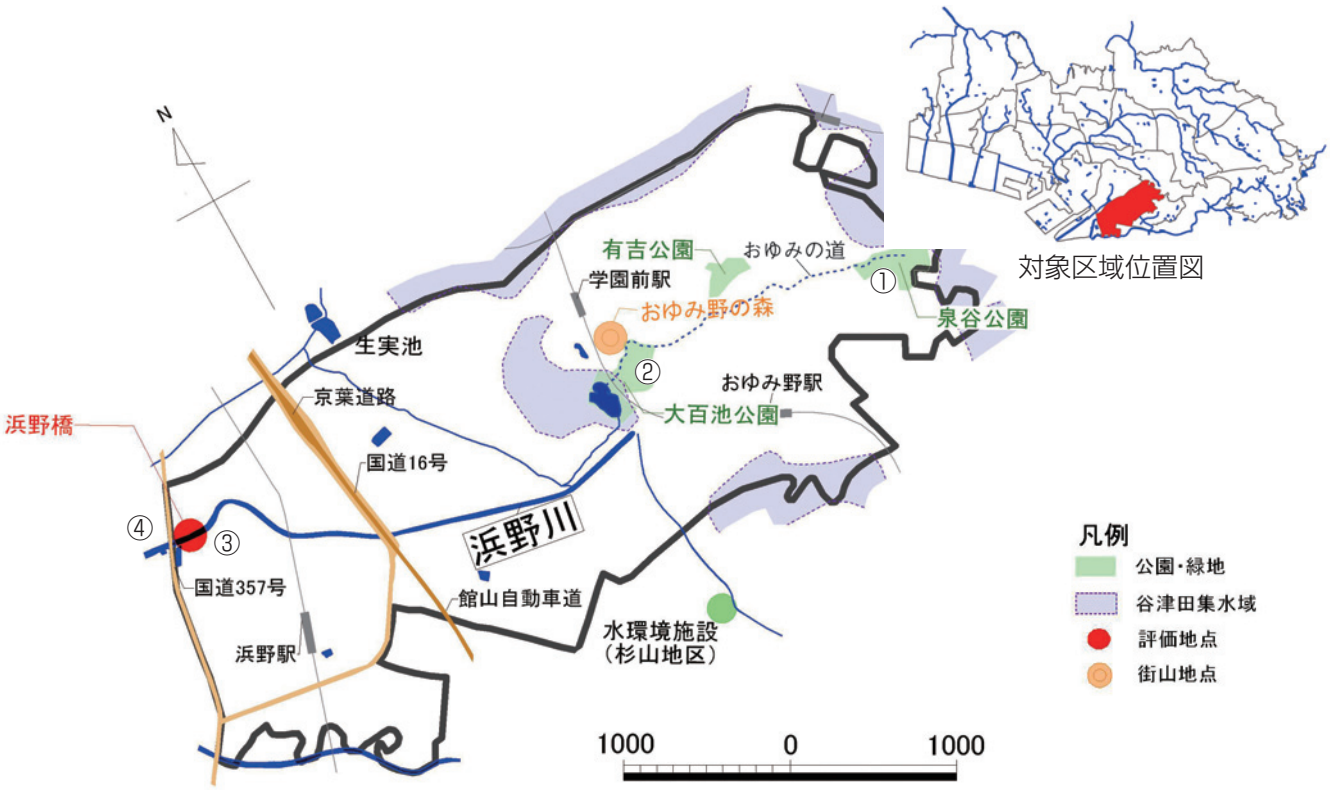
水域の概要と水環境の現状

1）水域の概要

区　名	町丁名
中央区	生実町*、塩田町*、浜野町*、南生実町、村田町*
緑区	おゆみ野　1、2、3*、4*丁目、おゆみ野有吉、おゆみ野中央　1、2、3、4*、5、6*、7*丁目、おゆみ野南 1、2、3、4*丁目、刈田子町*、鎌取町*、小金沢町*、椎名崎町、古市場町*

(備考)町丁名の後ろの*は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

・浜野川は鎌取町に源を発し、おゆみ野有吉、おゆみ野南等を流下し、東京湾に注ぐ約3.3㎞の二級河川です。上流部は台地、中流部は水田地帯を流れ、下流部から河口部は河床勾配がほとんどなく、潮の干満の影響を強く受けています。
・平成22年7月末現在、水域内の人口は約46,300人、世帯数は約18,100世帯です。（推計値）



対象区域位置図

①泉谷公園

②大百池公園

③浜野橋より上流を臨む

④浜野橋より下流を臨む

2）水環境の現状

■水生生物の生息・生育状況

【魚　類】

平成15年度は3種、平成19年度は6種が確認されましたが、重要種※は確認されませんでした。平成15年度の調査及び平成19年度の調査を比較すると、新たに、アベハゼ、ヒナハゼ、チチブの3種が確認されました。

【底生生物】

平成15年度は24種、平成19年度は37種が確認されました。重要種はクロベンケイガニが確認されました。平成15年度の調査及び平成19年度の調査を比較すると、確認種数が増加していることから、底生生物の生息環境は改善傾向にあると言えます。

◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、平成15年度は、春季、秋季ともに、「きれい」～「とてもよごれている」となります。平成19年度は、春季は「きれい」～「よごれている」であり、秋季は「きれい」～「とてもよごれている」でした。平成15年度と平成19年度において、あまり変化はみられませんでした。

河川（地点）	年度	調査時期	きれい	わりあいきれい	よごれている	とてもよごれている
浜野川（浜野橋）	H15	春季	←→		←→	
		秋季	←→			←→
	H19	春季	←→		←→	
		秋季	←→			←→

生物学的水質判定結果模式図（浜野橋）

なお、一般的にきれいな水域には「カワゲラ類」、わりあいきれいな水域には「コカゲロウ類」、よごれている水域には「ミズムシ」、とてもよごれている水域には「イトミミズ」などの生物が当てはまります。

※重要種
環境省や千葉市のレッドリスト等に記載され、千葉市の保護上重要な野生生物のことをいいます。

【植　物】

平成21年度に97種が確認されました。重要種※では、タコノアシ、エビモ、ヤナギモの3種が確認されました。

浜野川の浜野橋で確認された水生生物

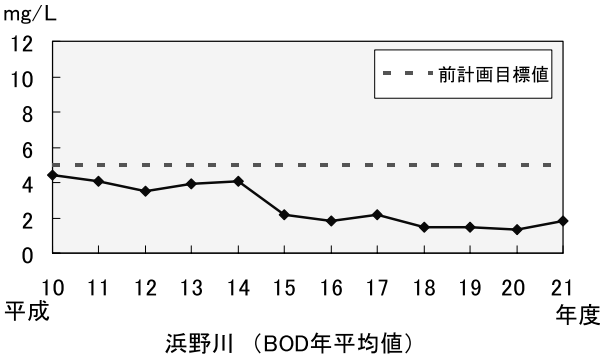
生物	前千葉市水環境保全計画 指標生物	H15現況	H19現況
魚類	フナ類 モツゴ コイ	スズキ ボラ マハゼ	スズキ ボラ マハゼ アベハゼ ヒナハゼ チチブ
底生生物	ウスバヒメガガンボ ヒメユスリカ ナミウズムシ	ホトトギスガイ マガキ アサリ ムラサキイガイ ゴカイ など全24種	ホトトギスガイ マガキ アサリ ムラサキイガイ クロベンケイガニ など全３7種
植物	エビモ ヒメガマ コウホネ	H21現況 **エビモ** ヤナギモ **ヒメガマ** など全97種	

注）太字は指標生物を示します。

■水質･流量等の状況

【河川の水質】

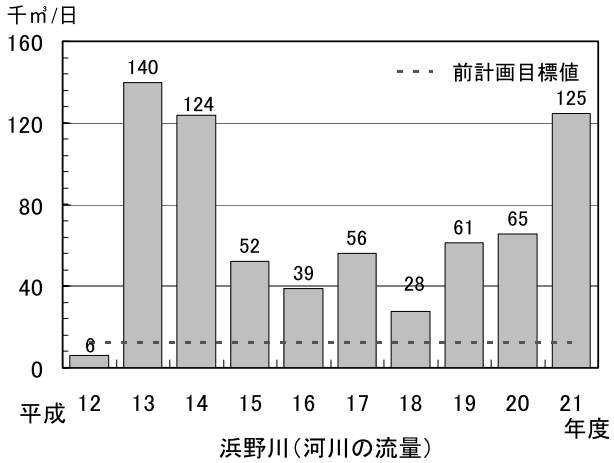
浜野橋におけるBOD年平均値は、平成10年度以降、低下する傾向を示しています。全期間を通して、前計画目標値の5mg/L以下を達成しています。



浜野川 （BOD年平均値）

【河川の流量】

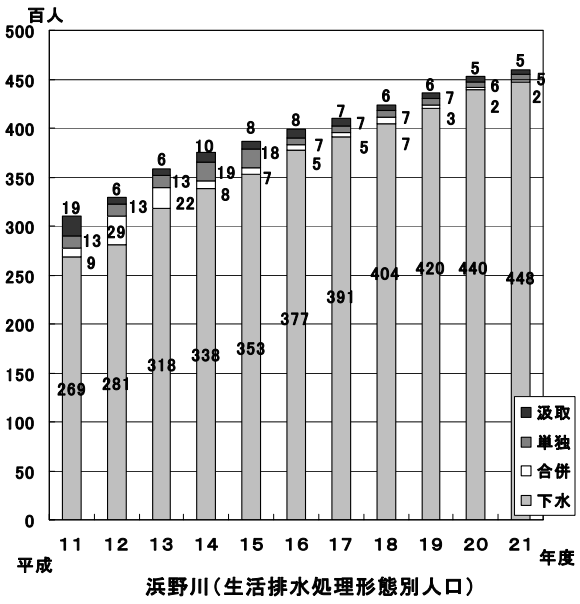
浜野橋における平成12年度から平成21年度の河川流量は6～140千㎥/日で推移しています。年度によるばらつきが大きく見られます。



浜野川（河川の流量）

【生活排水処理形態別人口】

平成21年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約97%となり、合併処理浄化槽人口が約1%未満、単独処理浄化槽人口が約1%、その他が約1%となっています。



浜野川（生活排水処理形態別人口）

注）汲取…汲み取り
単独…単独処理浄化槽
合併…合併処理浄化槽
下水…公共下水道

望ましい水環境の姿

1）生物指標

魚類等	①ビリンゴ、スズキ、マハゼ、セイゴ	①現在生息している重要種 ②過去に生息していた種 ③環境が整えば生息可能な種
底生生物	①クロベンケイガニ ②テナガエビ、モクズガニ	①現在生息している重要種 ②現在よりも１ランク上の種 ③環境が整えば生息可能な種 ④過去に生息していた種
水生植物	①タコノアシ、エビモ、ヤナギモ ②ヨシ、マコモ、ヒメガマ	①現在生育している重要種 ②水辺に特有な在来種

2）物理環境

河床材料	細礫、中～細砂
河道	現在の形状を活かす。
護岸構造	治水・美観の向上等に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道、サイクリングコース沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

3）水質・流量

ＢＯＤ	3mg/L 以下
溶存酸素量	5mg/L 以上
流量	評価地点が感潮域のため設定しない。

目標達成のための取組み

1）いろいろな水辺の生き物の保全

・泉谷公園から大百池までの約2㎞の「おゆみの道」については、市民と市が連携して豊かな生物の生息・生育場所の確保に向けた維持管理を行うとともに、優れた自然との連続性に配慮して、動植物の移動経路等となるエコロジカルなネットワーク（緑のネットワーク）の保全を推進します。

2）親しみのもてる水辺の創出

・親水・景観に配慮し、市民にゆとりと潤いのある憩いの場として整備した水環境施設（杉山地区）の適切な維持管理を実施します。

・プレジャーボートの無秩序な係留による景観の悪化等を回避するために、不法係留船の調査等を進めます。

・「おゆみの道」は古くからの水の歴史を持っている泉谷を市民の自然豊かな憩いの場に保全整備した場所であり、自然観察や環境学習の場として、今後も市民と市が連携して保全活動を進めます。

3）ゆたかな流れ（水量）の確保

・かん養域である森林や谷津田（大百池）の保全を図ります。

・市民緑地（おゆみ野の森）において、市民との連携による維持管理を実施します。

・「おゆみの道」のせせらぎの水源である泉谷公園を市と市民が連携して維持管理を実施します。

4）きれいな水（水質）の保全

・生活排水の集合処理（公共下水道等）を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。

・工場・事業場からの排出負荷の削減を推進します。

主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	緑のネットワーク化
親しみのもてる水辺の創出	水環境施設整備維持管理事業（杉山地区）
	プレジャーボート等の不法係留対策
ゆたかな流れ（水量）の確保	市民緑地の整備・維持管理〔街山づくり〕 （おゆみ野の森）
	谷津田の保全（大百池）
	都市公園、緑地等の維持管理 （大百池公園、泉谷公園、「おゆみの道」等）
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕
	工場・事業場排水等の適正処理の指導

（15）生実川　～郷土の生き物を呼び戻す川づくり～

基本方針
・街を彩る水辺空間

水域の概要と水環境の現状

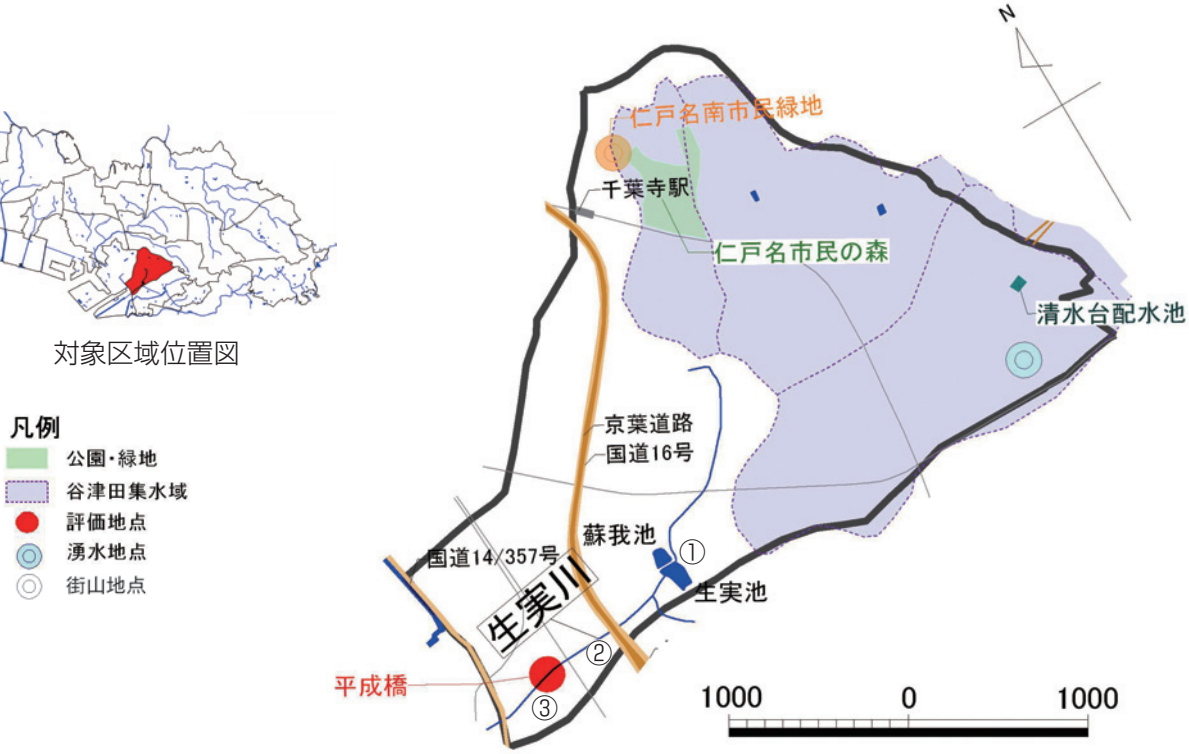
1）水域の概要

区　名	町丁名
中央区	赤井町、今井町、鵜の森町、大森町、生実町*、塩田町*、白旗2丁目*、蘇我町1丁目、蘇我2～5丁目、大巌寺町、仁戸名町*、花輪町、松ヶ丘町*
緑区	鎌取町*

(備考)町丁名の後ろの＊は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

・生実川は花輪町の台地に源を発し、赤井町、大森町の台地から水を集め、蘇我池と生実池に分流しています。
・平成22年7月末現在、水域内の人口は約28,400人、世帯数は約12,400世帯です。（推計値）

対象区域位置図



①生実池

②生実川の河川敷

③平成橋より下流を臨む

2）水環境の現状

■水生生物の生息・生育状況

【魚　類】

平成15年度は4種、平成19年度は6種が確認されました。このうち重要種※は、ビリンゴが確認されました。平成15年度と平成19年度の調査を比較すると、平成19年度に新たに確認された種は、コイ、アベハゼの2種でした。魚類の確認状況に大きな変化は見られません。また、ボラやハゼ類が多数生息していることから、これらの魚類に適した生息環境であると言えます。

【底生生物】

平成15年度は10種、平成19年度は19種が確認されました。このうち重要種では、ホソウミニナ、シラタエビ、スジエビの3種が確認されました。平成15年度の調査に比べて、平成19年度の調査では、確認種数が増加していることから、底生生物の生息環境は改善されていると言えます。

◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、平成15年度は、春季が「よごれている」、秋季が「よごれている」～「とてもよごれている」となりました。平成19年度は、春季が「きれい」～「よごれている」、秋季は「わりあいきれい」～「とてもよごれている」となり、汚濁に弱い種も生息できるような環境へと変化しつつあります。

河川（地点）	年度	調査時期	きれい	わりあいきれい	よごれている	とてもよごれている
生実川（平成橋）	H15	春季			←→	
		秋季			←→	→
	H19	春季	←→		←→	
		秋季		←→		←→

生物学的水質判定結果模式図（平成橋）

なお、一般的にきれいな水域には「カワゲラ類」、わりあいきれいな水域には「コカゲロウ類」、よごれている水域には「ミズムシ」、とてもよごれている水域には「イトミミズ」などの生物が当てはまります。

【植　物】

平成21年度に114種が確認され、重要種では、オニグルミ、タコノアシ、ミクリの3種が確認されました。一方、特定外来生物のアレチウリも確認されました。

生実川の平成橋で確認された水生生物

生物	前千葉市水環境保全計画指標生物	H15現況	H19現況
魚類	ウグイ オイカワ フナ類 モツゴ コイ	ボラ ビリンゴ マハゼ チチブ	ボラ ビリンゴ マハゼ チチブ アベハゼ **コイ**
底生生物	ウスバヒメガガンボ ヒメユスリカ タイコウチ	チリハギガイ科 ゴカイ ユビナガスジエビ チチュウカイミドリガニ スジエビ など全10種	ホソウミニナ イガイダマシ マガキ シラタエビ スジエビ など全１９種
植物	エビモ ヒメガマ コウホネ	H21現況 タコノアシ ミクリ **ヒメガマ** など全１１４種（特定外来生物アレチウリ含む）	

注）**太字**は指標生物を示します。

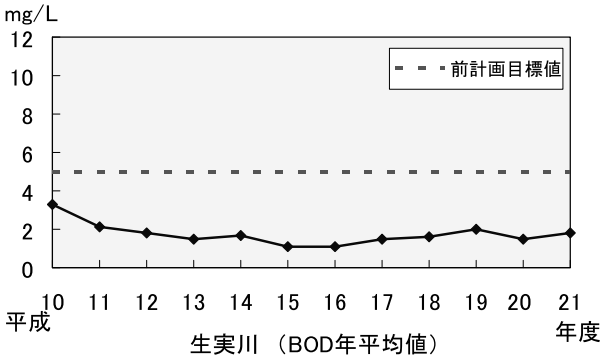
※重要種

環境省や千葉市のレッドリスト等に記載され、千葉市の保護上重要な野生生物のことをいいます。

■水質･流量等の状況

【河川の水質】

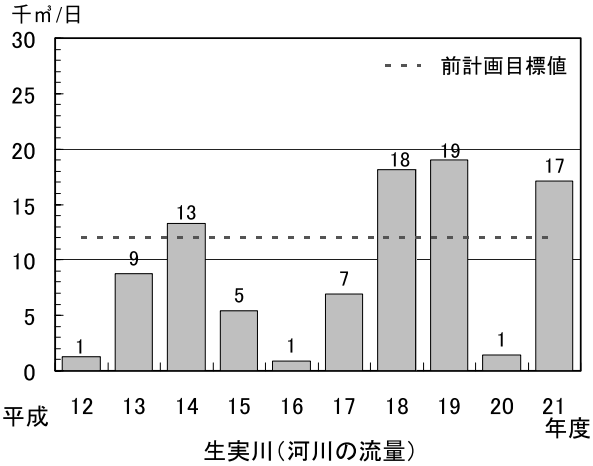
平成橋におけるBOD年平均値は、平成10年度以降、ほぼ横ばいの傾向を示し、1.1～3.3mg/Lの範囲で推移しています。全期間を通して、前計画目標値の5mg/L以下を達成しています。



生実川 （BOD年平均値）

【河川の流量】

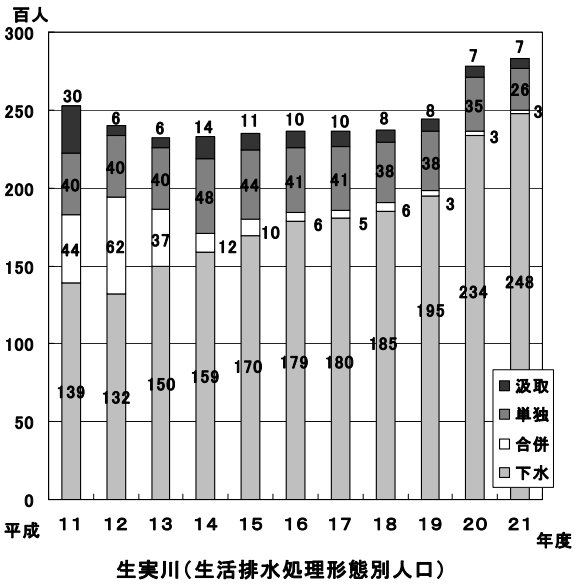
平成橋における平成12年度から平成21年度の河川流量は、1～19千㎥/日で推移しています。年度によるばらつきが大きく見られます。



生実川（河川の流量）

【生活排水処理形態別人口】

平成21年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約87%となり、合併処理浄化槽人口が約1%、単独処理浄化槽人口が約9%、その他が約3%となっています。



生実川（生活排水処理形態別人口）

注）汲取…汲み取り
単独…単独処理浄化槽
合併…合併処理浄化槽
下水…公共下水道

望ましい水環境の姿

1）生物指標

魚類等	①ビリンゴ ②スズキ、マハゼ、セイゴ	①現在生息している重要種 ②過去に生息していた種 ③環境が整えば生息可能な種
底生生物	①ホソウミニナ、シラタエビ、スジエビ ②テナガエビ、クロベンケイガニ、モクズガニ	①現在生息している重要種 ②現在よりも1ランク上の種 ③環境が整えば生息可能な種 ④過去に生息していた種
水生植物	①オニグルミ、タコノアシ、ミクリ ②ヨシ、マコモ、ヒメガマ	①現在生育している重要種 ②水辺に特有な在来種

2）物理環境

河床材料	中～細礫、中～細砂
河道	瀬と淵等がある。 落差工による生物の生息環境の分断がない。
護岸構造	環境に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道、サイクリングコース沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

3）水質・流量

BOD	3mg/L 以下
大腸菌群数	1,000MPN/100mL 以下
溶存酸素量	5mg/L 以上
流量	評価地点が感潮域のため設定しない。

目標達成のための取組み

1）いろいろな水辺の生き物の保全

・生実川のほぼ中間地点に位置する生実池は緑が多く、人々にとっての憩いの場であるとともに、鳥類等の貴重な生息地となっています。生実池の周辺地域も含め、人と生き物が共生しうる空間となるように整備するとともに、動植物の移動経路等となるエコロジカルなネットワーク（緑のネットワーク）の整備・保全を推進します。

2）親しみのもてる水辺の創出

・生実川上流域は歴史的な資源に恵まれ、千葉市の散歩道「大巌寺・生実の城跡コース」となっていることから、地域特性に配慮し、のどかで趣のある河川空間の形成に努めます。

・河川周辺の除草等により景観の改善に努めます。

3）ゆたかな流れ（水量）の確保

・かん養域である森林や谷津田（赤井）の保全を図ります。

・民有林を対象とした枝打ちや、間伐林内の整備等を行い、森林の保全・育成を図ります。

・市民緑地（仁戸名南）及び市民の森（仁戸名）において、市民との連携による維持管理を実施します。

4）きれいな水（水質）の保全

・生活排水の集合処理（公共下水道等）を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。

主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	緑のネットワーク化
親しみのもてる水辺の創出	川辺の市民利用の推進
	河川等環境の保全（生実川）
ゆたかな流れ（水量）の確保	森林の育成・保全〔優良森林整備事業〕
	市民緑地の整備・維持管理〔街山づくり〕（仁戸名南）
	市民の森の整備・市民協働による維持管理（仁戸名）
	谷津田の保全（赤井）
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕